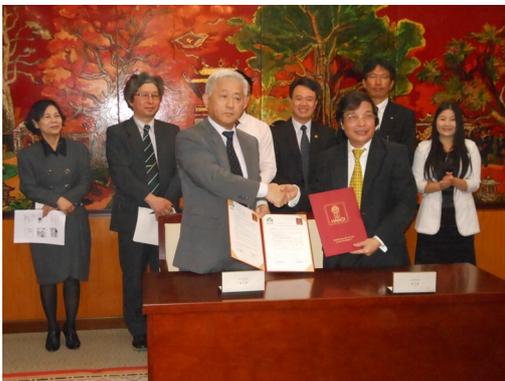


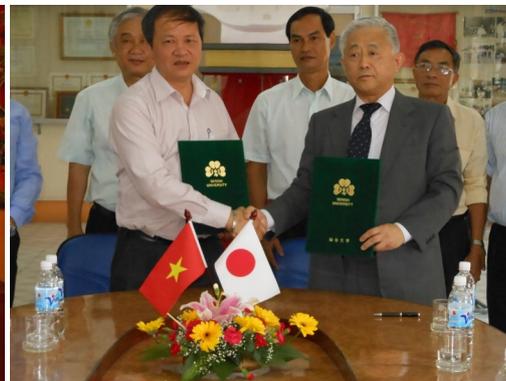
Monthly Report

Vol.83 / 2013 Mar.

ベトナムの二つの大学と協定書を締結



ハノイ大学との調印式（3月7日）



ホーチミン市体育大学との調印式（3月8日）

3月にベトナムを訪問し、二つの大学と協定書を締結してきた。二つの大学とはハノイ市にあるハノイ大学（Hanoi University）とホーチミン市にあるホーチミン市体育大学（Hochiminh City University of Sport）である。

ハノイ大学との調印式は3月7日に行われた。ハノイ大学は外国語大学として発展してきたが、Luan学長によると、今後領域を広め、健康関連の学部の新設も検討しているとのことであった。調印式にはJICA関連のプログラムでベトナムにて「足こぎ車いす」の普及に務めている関矢准教授と関係者の方々も出席され、論文等も先方にお渡しした。今後の交流の進展に期待するところである。

翌3月8日にホーチミン市体育大学との調印式が行われた。ホーチミン市体育大学は本学と同様に体育科学を専門とする大学であり、共通する学科を備えている。今後、学生・教員間の交流や共同研究等の進展が期待できるものと思われる。

本学とベトナムの教育機関との協定書の締結は、今回が初めてとなる。今回のハノイ大学およびホーチミン市体育大学との協定書の締結が、体育・健康科学を中心とした今後の本学との交流の端緒となることを期待するところである。

<報告：国際交流センター長 鎌田幸雄>

< 目次 >

ベトナムの二つの大学と協定書を締結	1
平成24年度仙台大学卒業式を挙げる	2
第8回健康福祉研究会を開催	3
海を超えて輝く学生達	6
CSULB 短期研修報告	7
学生の活躍	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等ございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

東日本大震災2年 仙台大学「東日本大震災慰霊式」を開催



3月11日（月）、学内に建立した慰霊碑前で「東日本大震災」の慰霊式を行い、津波で犠牲になった学生3名の死を悼みました。午後2時46分に柴田町の防災無線のサイレンが鳴り響く中、慰霊碑の前に集まった教職員ら約100名が黙とうを捧げ、献花台に花を手向け、焼香を行いました。

それに先立ち午前中には、津波で亡くなったさくらいまさひと桜井理仁さんの死を悼み、オーストラリアの英語教師アンドリュー・ランプさんが本学を訪れました。アンドリューさんは、桜井さんがオーストラリアに留学した際の英語教師。慰霊碑の前で手をあわせ桜井さんを偲んでいました。

アンドリューさんは、慰霊碑弔問後、桜井さんの出身地である「山元町追悼式」にもマーティ・キーナート副学長と共に参列し、桜井さんの父親との対面を果たしました。

写真上：仙台大学東日本大震災慰霊式の様子

写真下：オーストラリアの英語教師アンドリュー・ランプさんが慰霊碑へ献花・焼香する様子

平成24年度 仙台大学卒業式を挙行



朴澤学長から「卒業証書・学位記」を受け取る体育学科総代の渡邊まみさん（体育学科4年—新潟江南高校出）

3月16日（土）、本学第五体育館で「平成24年度 仙台大学卒業式」（第43回体育学部「卒業証書・学位記」授与式並びに第14回大学院「学位記」授与式）が挙行されました。体育学部491名（体育学科295名・健康福祉学科91名・運動栄養学科70名・スポーツ情報マスメディア学科35名）及び台湾の台東大学との国際交流提携に基づく2回目のダブルディグリー制1名、並びに大学院スポーツ科学研究科16名のあわせて508名が所定の課程を修了し、「卒業証書・学位記」が授与されました。

開式に先立ち、本来であれば今年度卒業予定でしたが、「東日本大震災」で犠牲になった学生2名に対し、会場にいる全員で黙祷を捧げました。

そのうちの一人である佐藤加奈子さんの父親はさとうかなこ「娘はきっと卒業式に出席したかったと思う。体育教師になる夢を叶えてやりたかった」と話し、加奈子さんの写真を抱いて卒業式に列席しました。また、スポーツ競技や文化活動等において、特に顕著な功績を挙げた方を表彰する「平成24年度 学生表彰式」もあわせて行いました。

宮城県の教員採用試験に合格し、4月から県内の中学校で保健体育教諭として勤務することになっているスポーツ情報マスメディア学科総代のたかはしゆう

高橋悠さん（スポーツ情報マスメディア学科4年—宮城県第二女子高校出）は「仙台大学の4年間は本当に楽しかった。1年間フィンランドのカヤニ応用科学大学に留学したので、1年遅れの卒業となったが、海外留学は自分を成長させてくれた」「4月からは、教師として期待と楽しみでいっぱい。仙台大での経験を大いに生かしたい」と力強く話しました。

卒業生のますますのご活躍とご健勝を祈念申し上げます。

「第8回健康福祉研究会」を開催



写真上：特別講演する宮城県レクリエーション協会の
本多弘子会長（仙台大学名誉教授）
写真中・下：パネルディスカッションの様子

3月8日（金）に仙台ガーデンパレスにて、「第8回健康福祉研究会」を開催しました。本研究会は、介護や福祉・健康づくり等の現場に勤める方々と本学の健康福祉学科の卒業生、在校生、教職員が相互に学習研鑽できる環境づくりを進めるために、平成16年度より毎年開催しているものです。

今回は「体育系大学におけるレクリエーション指導者養成」をテーマに開催し、約260名が参加しました。

はじめに「大学教育におけるレクリエーション指導者」と題して、公益財団法人日本レクリエーション協会マネージャーの片山昭義氏より基調講演をいただきました。講演の中で、レクリエーションのもつ魅力に触れ、日本で初めてレクリエーション指導者養成に取り組んだ本学について、「レクリエーションの価値を踏まえ、レクリエーション指導者養成に尽力している」とコメントいただきました。

特別講演では、NPO法人宮城県レクリエーション協会会長の本多弘子氏（仙台大学名誉教授）より「仙台大学のレクリエーション指導者養成のはじまり」についてご講演いただきました。本多氏は、本学のレクリエーション指導者養成の礎を築いた方であり、本学のレクリエーション指導者養成のきっかけと、その歩みについて、当時のエピソードを交えながらお話をいただきました。

パネルディスカッションでは、小池和幸健康福祉学科長がコーディネーターを担当、パネリストとして5名の卒業生が登壇し、「大学でレクリエーションを学んで」をテーマに意見を交わしました。在学時に学んだレクリエーションについて、「コミュニケーション力やホスピタリティも自然と身に付き、社会に出た時にそれを100%活かすことができた」、「学生時代に先生方から学んだノウハウを発揮して、現在の職業に活かすことができている」と意見があがりました。また、「自分が楽しめば、周りも楽しみ、笑顔を引き出すことができる。レクリエーションにはそんな力がある」、「思いやりの心を感じた時にレクリエーションの力を感じる」など社会人基礎力育成の視点からも、レクリエーションの可能性があると再認識できたディスカッションとなりました。最後に小池健康福祉学科長が、「在学中にレクリエーションを学ぶことで、卒業生たちのようにマインドをもって人と関わることができる。今後もレクリエーション指導者の養成に努めていきたい」と会を締めくくりました。

その後の懇親会は、卒業生たちが本多氏を囲み、歌やダンスを披露するなど、大盛会のうちに終了しました。本多氏からは本学卒業生並びに教職員に対して感謝の言葉が述べられ、本学のレクリエーションを通じた繋がりの強さを改めて感じた一日となりました。

<報告：GTセンター 新助手 齋藤まり>

仙台大学に宮城県警より感謝状



感謝状を受け取る和泉隼臨時職員

2月25日(月)に宮城県警察本部にて、平成24年度大学生健全育成ボランティア「ポラリス宮城」の活動報告会が行われました。この活動は、少年と年齢的に近く、少年の非行防止及び健全育成活動に意欲と熱意のある大学生をボランティアとして登録し、社会参加活動の支援や街頭活動等を通し、少年の健全育成に寄与することを目的とし、平成16年から実施されています。

本学は、「ポラリス宮城」の発足時からボランティア学生の派遣等の支援・協力が評価され、宮城県警察本部生活安全部長より感謝状が贈呈されました。

また、本年度は本学から4人の学生が

はたやまなおき
活動し、畑山尚生さん(体育学科2年一古川黎明高校出)が大河原地区代表として活動報告を行いました。



活動の成果を発表する畑山尚生さん

非常に堂々とした姿勢と、ユーモア溢れた発表で会場は時々、笑いに包まれ、警察署の方々からもお褒めの言葉を頂くほどの素晴らしい発表でした。

<報告：3月12日(火)>

学生支援室臨時職員 和泉隼>

「健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催

—初級12名・中級5名・上級8名を認定—



朴澤学長から認定証を授与される学生

3月15日(金)、本学専門研究棟C201教室で、本学学生の「健康づくり運動サポーター認定証書授与式」が開催されました。今回は、健康づくり運動サポーターとして、初級12名・中級5名・上級8名の計25名が認定されました。「健康づくり運動サポーター」は本学独自の認定資格で、同サポーター養成プログラム(実践)を修了することによって認定されます。

朴澤学長は「健康づくり運動サポーター養成事業は、健康運動実践指導者や健康運動指導士資格との連動も加わってきている。同事業に携わってきた経験を生かし、社会の色々な場面で活躍してほしい」。小池健康福祉学科長は「学生の協力によって、今年度は地域の健康づくり事業を約100回実施することができた。亘理・女川における仮設住宅での健康づくり教室をあわせると約250回の実施になる。同事業は地域で定着してきた感があり、今後も積極的な学生の参加を期待している」とそれぞれ話されました。

最後に、上級認定者8名から「健康づくり運動サポーター養成事業を通して、自らの成長が実感できた」という内容の感想が異口同音に述べられました。

※地域密着型の「健康づくり運動サポーター」養成プログラムは、運動についての正しい知識をもち、「安全に」「元氣よく」「明るく」「楽しい」運動指導のできるサポーターを養成し、体育系大学としての特徴を生かして、地域の健康づくりに貢献しようというものです。

平成24年度 学校支援ボランティア感謝状贈呈式



3月15日(金)、本学第5体育館大会議室において、平成24年度学校支援ボランティア感謝状贈呈式が開催されました。

今年度は仙台市から63名、柴田町から16名、岩沼市から7名、大崎市から3名、名取市から25名、計114名の学生に対し、4市1町の各教育委員会から学習支援や部活動支援活動に対する感謝状が授与されました。

朴澤学長からは「教員志望が多い本学にとって、実践教育の場としてこのような機会を与えていただき心から感謝申し上げたい。」との挨拶があり、表彰された学生を代表し4名の学生が学生支援ボランティアでの経験談を報告しました。仙台市教育委員会教育指導課千田博史指導主事からは、「東日本大震災を経た子供たちの心のケアを含め、引き続き今後とも様々な面でご支援いただきたい」との講評をいただきました。



わたなべ

渡邊まみさん（体育学科4年—新潟江南高校出）
新潟市小学校教諭正採用（写真左）

教育実習の期間は、自分のことに精一杯で子どもと向き合う時間が取れないのが現実でした。学習支援ボランティアを通じ、学級の中で担任の先生と子供との対応や解決方法などを間近で見て接した経験は、自分のこれからの現場に活かしていけると思います。教員を目指す後輩たちには、積極的に教育ボランティアに参加したほうが良いと勧めたいです。

ゆうきけんた

結城健太さん（健康福祉学科4年—桶岡高校出）
宮城県気仙沼支援学校常勤講師採用（写真中）

保健体育科教員を目指して入学しましたが、渡邊康男教授の授業を受講してから「特別支援」の教員を目指すようになりました。ボランティアとして3年生から近隣の小中学校にだいたい週1～2回の学習支援をしてきました。4月からは常勤講師として特別支援教育に関わります。子供たちの個性を受け入れ自立していくための指導をしていきたいと思っています。

うじえみのり

氏家美紀さん（体育学科4年—一関第二高校出）
千葉県小学校教諭正採用（写真右）

教育ボランティアは、子供たちとの距離が近い存在です。在学中に教育現場で普段の子どもたちと接したことは、かけがえのない経験となりました。加えて、教職支援の先生方と通信制指導室の先生方の教科指導から面接指導まで手厚くご指導いただいたことに感謝しています。これからは子供たちの可能性を引き出せる教員になれるよう頑張ります。本当にお世話になりました。

海を超えて輝く学生達 Winter ~ Spring 2013

—ハワイ州立大学 英語研修NICE Program参加の3名—



写真右から甲田さん、プロフェッサーのジュディさん、東海林さん、石川さん

2013年2月3日～24日の3週間、ハワイ州立大学（UH）アウトリーチ校で実施する3週間の英語研修NICE Programに、本学から3名の学生が参加し、「生きた英語」はもちろんのこと、チューター役であるUHの学生との交流やフラダンスへのチャレンジなど、英語圏におけるさまざまな異文化体験を通し、大いに学びました。

参加した3名は、東海林俊希さん（とうかいりんとしきスポーツ情報メディア学科2年—鶴岡高校出）、甲田祐樹さん（こうたゆうき健康福祉学科1年—塩釜高校出）、石川開さん（健康福祉学科1年—村田高校出）で、今回の参加理由を以下のように述べました。

東海林さん「世界各国をめぐり沢山の人とコミュニケーションをした上で、自分の1番したい仕事を探したいと思った。NICEの授業はもちろん、UH校内で現地の学生達と話すのが楽しくて仕方なく、自分の言いたいことを言えない悔しさを痛感しているので、ちょっとした英語表現などを一つでも多く覚え、英会話力をあげたい。」甲田さん「卒業後の進路は介護福祉士を考えているが、もともと英語が好きで興味があったので、今回NICEプログラムに参加することで、別な可能性が広がるかもしれないと期待している。今は英語で書いた紙を見ないと、言いたいことが言えなくてもどかしいが、できるだけ英単語と短い文章を暗記して、スラスラ話せるようになりたい。」石川さん「卒業後の進路は健康運動指導士を考えているが、まだ漠然としていて決まらない。今まで英語が苦手な嫌いだっただけで、このままではいけないと考え決心した。」今回のNICE受講者は全部で145人、参加国は日本（61人）、韓国（38人 INHA Universityより）、中国など。特に日本は、京都大学から29人も多数参加があり、国立・私立を問わず英語を実施で学ぶことに各大学がより力を入れている印象を受けました。（内訳）京都大学29人、福岡大学20人、多摩大学1人、岐阜経済大学7人、北海道大学1人、仙台大学3人（他にはリタイアした方数名と、大学にたよらず個人で参加した学生など）

2月4日プログラム初日は、UH校内キューケンドール101に全員が集まり、アウトリーチカレッジの担当者から3週間で実施する概要を聞くなどオリエンテーションを経たのち、初歩（レベル1）から上級者（レベル5）まで5段階に分かれているクラスを決めるためのプレイスメントテストを

受けました。最初はリスニングで50問、次に英語講師からマンツーマンでの英語によるインタビューを10分程度、両方の結果が翌日発表され、いよいよ授業開始です。



レベル1のGregg先生と

東海林さん（レベル2）、甲田さんと石川さん（レベル1）は、各クラス10名程度のクラスメートと共に「Only English」の鉄則を守り、英語漬けの生活がスタート。3人はキッチンつき

の安価なコンドミニアムタイプのホテルでルームシェアし、毎日勉強のために「公共バス」で通います。

車いすの市民がバスに乗る際には乗客誰一人苛立つことなく笑顔で迎え、ドライバーの指示のもとその方をみんなが自然にサポートする、高齢者が乗車してきたらすぐさま席を譲る、自分がバスを降りた後も次に続く人のためにバスの扉を抑えて待っているなど、彼らは他者を思いやる気持ちにあふれた「ホスピタリティ」をも身に付け実践していました。

授業は自己紹介、他己紹介、クイズ形式のQ&A、UHの学生へのスポーツに関するアンケート調査他盛りだくさんで、学生達はフラダンスに挑戦し、週末にはダイヤモンドヘッド頂上でさわやかな汗をかくなど、日々を充実させながらあっという間に3週間が過ぎました。

修了式では、それぞれが修了証書を受取りとても誇らしげな様子でクラスメイトや先生方と写真撮影や食事を楽しみました。彼らはスピーチをする代表ではなかったものの、それぞれ周りの学生などと英語で積極的にコミュニケーションを取って最後のひと時を有意義に過ごしたようです。

二年生でHigh Basic（レベル2）のクラスに属した東海林さんは、「アルバイトでお金を貯めたら是非またハワイで勉強したい」と将来の目標を明確化したようでした。一年生の



レベル2のMonica先生と

石川さんと甲田さんも「もっと英語が話せるようになりたい」と英語に対する苦手意識を克服した様に見えました。この研修を通して、言語だけではなく、ハワイの文化や礼儀作法なども経験する事で、国際交流の重要性を学ぶ事が出来たのではないのでしょうか。

<報告：佐藤美保、白幡恭子>

CSULB 短期研修報告

研修先: California State University, Long Beach



講義:「アメリカにおけるビジネスとしてのスポーツの成り立ち」
SWOT分析発表の様子

2月12日～22日までカリフォルニア州立大学ロングビーチ校(CSULB)において「平成24年度仙台大学春季短期集中プログラム スポーツ栄養&スポーツマネジメントセミナー」が実施されました。

参加引率教職員、参加学生については以下に示した通りとなっています。

教職員	マーティ・キーナート副学長 柴田恵里香助教
	渡邊一郎事業戦略室長 加賀洋平新助手 白坂牧人新助手 佐藤幸子新助手 堀江知世新助手
学生	高田瞬輔(体育学科3年-新潟・新発田高校出) 瀬谷千尋(体育学科3年-郡山東高校) 成澤 舞(運動栄養学科2年-酒田西高校出) 川田聡子(運動栄養学科2年-蔵王高校出) 千葉ありさ(運動栄養学科2年-東京・明星高校出) 小辻美希(運動栄養学科2年-函館白百合学園高校出) 及川美雪(運動栄養学科3年-東北高校出) 三品朋子(運動栄養学科3年-加美農業高校出) 羽賀亜紀(スポーツ情報メディア学科2年-福島・橘高校出)

昨年度までは夏季に実施されていましたが、春季の開催となり校内がCSULBの学生で活気ついた中研修を実施することができました。



体育館:Walter Pyramid, CSULB

研修2か月前より柴田助教による英会話の講座が開催されました。学生からは「勉強会を行ったことで、研修会での挨拶など自信を持って行うことができました」といった声が聞かれました。

事前講義として、笹生講師によるスポーツマネジメント講義及び運動栄養学科新助手によるスポーツ栄養の講義が行われました。初の海外渡航学生もいたため、加賀新助手による海外生活に関する質疑応答の時間も設けられ、学生から多

くの疑問が投げかけられました。このように事前講義や勉強会が実施されたことにより研修に臨めたと考えられます。

今年度より研修期間が4日間延長され講義数や施設見学、スポーツ観戦の時間が増加し、より充実したものとなりました。

スポーツ栄養の授業ではスポーツ選手に必要な栄養素に関する基本的な内容からスポーツ選手の献立を考えるとといった実践的な内容まで行われました。



講義:「運動選手の体組成の評価」
Bod Pot測定

また昨年の10月に本学で開催された国際交流講演会に来日いただいたラルフ・ローゼニック博士による体組成に関する講義が行われました。

スポーツマネジメントに関する授業では学生2グループに分かれ、SWOT分析を用いて、仙台プロバスケットボールチームとプロサッカーチームの

分析等を行いました。高田瞬輔さん(体育学科3年-新潟・新発田高校出)より「大学で学んだ講義とつながる部分があります。日本にも取り入れられる内容が多いと思いました。スポーツ栄養学は難しいですが、自分の競技に活かせるものが多く、もっと学びたいと思いました。」という意見が聞かれました。専門分野以外の講義で戸惑う様子も見られましたが、教員や周りの学生と話をしながら取り組んでいく様子が印象的でした。

CSULBの学生との交流会及び修了式では本学の学生及び運動栄養学科新助手が日本の12か月について英語で発表を行いました。各月ごとに工夫を凝らした発表となっておりCSULBの学生や教職員の方から笑いや驚きの声が上がりました。学生は海外との交流を持つことで日本の文化について改めて考えることができたのではないのでしょうか。

来年度7月、CSULBから学生が来日する予定となっております。それに向け、学生の中にはマーティ・キーナート副学長による英会話教室へ参加し、より語学力を磨いております。

<報告:GTセンター 新助手 堀江知世>



全体集合写真:修了式

エアリアルで「2014年ソチ冬季五輪」を目指す南隆徳さん — 国際大会で初の表彰台



左から朴澤学長、南隆徳さん、阿部篤志講師

エアリアル（スキー・フリースタイル競技の一つ）で「2014年ソチ冬季五輪」を目指す本学競技スキー部の南隆徳さん（仙台大学大学院1年—北翔大卒—北海道・美深高校出、165cm/62kg、最高成績：ワールドカップ15位）が、国際大会で初の表彰台を獲得しました。

2月17日（日）にLake Placid（アメリカ合衆国ニューヨーク州）で行われたノースアメリカンカップ第5戦と、2月23日（土）にVal Saint-Com（カナダケベック州）で行われたノースアメリカンカップ第7戦で見事3位に入る健闘を見せました。

2月27日（水）に南さんは、阿部篤志講師と共に同カップ3位の成績報告に学長室を訪れました。

南さんは、北海道美深町の出身で、同町とJOC（日本オリンピック委員会）・JSC（日本スポーツ振興センター）が連携して進めるタレント発掘事業により輩出された選手。同町と本学との相互協力協定を通じてタレント発掘事業に携わっている本学の栗木一博教授（スポーツ心理学）、阿部篤志講師（スポーツ情報戦略）からの勧めと、競技終了後のことを視野に入れて仙台大学大学院への進学を決意。本学大学院「スポーツキャリア大学院プログラム（文部科学省委託事業）」の受け入れ第一号アスリートとして入学しました。

南さんは「国際大会で初めて表彰台に立つことができ、チームメイトからも祝福されて嬉しかった」と笑顔を見せ、「3月16日（土）に全道大会、3月17日（日）に全日本選手権大会が地元美深町で開催される。自分の得意技であるレイフルフル（3回転2回ひねり）を決め、成長した姿を地元の人にも見せたい」「ソチ冬季五輪出場が今年目標。文武両道で頑張りたい」と気を引き締めていました。

今後も南隆徳さんへの熱いご声援を宜しくお願い致します。

平成24年度 仙台大学学生表彰式



3月5日（火）、本学「鹿島メモリアルクラブハウス（通称：KMCH）」大会議室で「平成24年度仙台大学学生表彰式」が行われ、新体操競技部・柔道部・体操競技部・男子バレーボール部・漕艇部の5団体及び10個人（柔道3名・漕艇1名・体操競技3名・スケルトン1名・ボブスレー2名）がスポーツ功労賞を受賞しました（柔道部・ボブスレー・リュージュ・スケルトン部は遠征中のため欠席）。

はじめに、栗木学生部長から「本学学生が課外活動としてスポーツを行い、顕著な功績を納め、本学の名誉を高め

た学生に、スポーツ功労賞を団体・個人に対して表彰するものである」と趣旨を説明。続けて、朴澤学長から表彰状並びに記念品が授与されました。

男子バレーボール部の西村優輝主将（第67回国民体育大会バレーボール成年男子第5位／体育学科3年—弘前工業高校出）は「もう一つ勝てていれば、ベスト4に入れた。来年は、国体とインカレでベスト4を目指す」。

漕艇部（女子）の前田佑美主将（第39回全日本大学選手権女子舵つきクォドルブル第4位／体育学科3年—静岡・新居高校出）は「表彰されるのは気分がいい。今年は、昨年以上の成績が残せるように頑張りたい。最高学年としての自覚をしっかりと持ってボートに取り組んでいきたい」と新たな決意を述べました。

最後に朴澤学長から「日々の努力の成果が表彰という形となった。この表彰を今後の生活の糧とし、これからも一生懸命頑張ってもらいたい。体育系大学の学生として、スポーツへの参加のみならず、スポーツの普及や指導等のいろいろな場面において、スポーツ活動に関与してほしい」と期待を込めた挨拶があり、表彰式が終了しました。

アメリカンズカップ男子ボブスレー二人乗り、OB鈴木寛さん・黒岩俊喜さん (仙台大1年)組が7位―「下町ボブスレー」が国際大会で初滑走



※写真：鈴木寛さん（前：パイロット）・黒岩俊喜さん（後：ブレイカー）組が「下町ボブスレー」を押しながらスタートする様子
(写真提供=下町ボブスレーネットワークプロジェクト)

3月6日（水）・7日（木）、米国のレイク・プラシッドで行われた「ノースアメリカンカップ」男子ボブスレー

二人乗り第8戦・第9戦で、日本代表のOB鈴木寛さん（マネックス証券/H8年体育学科卒―北海道・室蘭大谷高校出）・黒岩俊喜さん（運動栄養学科1年―神奈川・橘高校出）組が「下町ボブスレー」を使用し、国際大会で滑走しました。「下町ボブスレー」での国際大会滑走は、初めてとなります。

結果は両日7位（出場国は1日目が11カ国20チーム・2日目が10カ国19チーム）。

優勝は、両日も韓国という結果となりました。

ボブスレーイタリア代表はフェラーリ、ドイツ代表はBMWといった有名企業がボブスレーの開発をしていますが、日本代表はドイツ代表の中古のボブスレーを調達し、改良して競技に臨んでいるというのが現状。「下町ボブスレー」は、東京都大田区の金属加工が得意な中小製造業が中心となって日本人による日本人のための初の国産ボブスレーを開発し、2014年ソチ冬季五輪を目指す日本代表を応援しようというプロジェクトです。（詳細は、「下町ボブスレーネットワークプロジェクト公式サイト」をご参照ください。）

下町ボブスレーで初滑走したブレイカーの黒岩さんは「初めて下町ボブスレーに乗って、振動が大きいが少し気になったが、空力設計や軽量化が優れており、乗り心地は良かった。下町の製造業の方々の「情熱」と「真心」が込められたボブスレーに乗せて頂き、感謝の気持ちでいっぱい」「体重を増やし、脚力（スピード）を付け、精神面を鍛えることが今後の課題。下町ボブスレーに乗って、ソチ冬季五輪に出場したい」と語りました。

今後も鈴木寛さんと黒岩俊喜さん、「下町ボブスレー」への熱いご声援を宜しくお願い致します。

2013女子フロアボールアジア太平洋選手権大会で日本チーム2位に貢献



※写真前列中央：松浦里紗さん（赤いユニフォーム）、後列左から泉幸さん、宇野澤衣里さん、早坂優子さん

2月20日（水）～24日（日）まで韓国・ポチョン市で行われた「2013女子フロアボールアジア太平洋選手権大会」において、日本代表選手として出場したGK松浦里紗さん（健康福祉学科4年―福島西高校出）・FW泉幸さん（健康福祉学科4年―米沢中央高校出）・DF宇野澤衣里さん（体育学科2年―宮城広瀬高校出）

及び本学と姉妹校である明成高校3年のDF早坂優子さんが日本チーム2位に貢献し、見事日本チームは12月にチェコで開催される世界選手権への切符（上位3チーム）を手に入れました。

同太平洋選手権への参加国は、日本・シンガポール・韓国・オーストラリアの4か国。総当たりのリーグ戦を行い、上位3チームまでが世界選手権へ出場します。日本はシンガポールに5-0、韓国に6-1と勝利しましたが、オーストラリアに2-3と競り負け、惜しくも2位という結果になりました。

「2番手のゴールキーパーとして試合に出場した。国際大会独特の雰囲気には呑まれないように気をつけた。試合を重ねるごとにチームが一つになった」（松浦さん）。「特にオーストラリア戦は、体格差・体力差を感じた。日本の持ち味はスピード。世界選手権に向けてレベルアップを図りたい」（泉さん）。「オーストラリアは大型選手が多く守るのが大変だった。日本代表の練習を通して、ドリブル・パス・シュートの精度を高めたい」（宇野澤さん）。

12月にチェコで開催される世界選手権での活躍にご期待ください。

競技スキー部 南隆徳さん、フリースタイル「エアリアル種目」で優勝



写真中央：表彰台で笑顔を見せる南隆徳さん

3月17日（日）、北海道美深スキー場で「第33回全日本スキー選手権大会」フリースタイルエアリアル種目みなみたかのりが行われ、北海道美深町出身の南隆徳さん（仙台大学大学院1年－北翔大学卒－北海道・美深高校出）が3年ぶり2回目の優勝を果たしました。

一本目に2位につけた南は、二本目の演技で逆転。二本の合計得点は109.580点。2位とは僅差での優勝となりました。

今シーズンは、国際大会で初のメダル獲得、全道選手権・全日本選手権で二冠を達成した南さんは「地元（美深）から大勢の人たちが応援に駆け付けてくれた。優勝を飾れたことは嬉しいが、内容はやや不満。以前からあった腰痛が再発してしまい、一回転での出場となった。三回転を披露したかった」と悔しさを滲ませ、「腰痛のリハビリに専念し、今季目標に掲げている3回転3回ひねりが決められるよう基礎体力づくりに取り組みたい」と今後の抱負を話しました。

ソチ冬季五輪を目指す南隆徳さんへの温かいご声援を宜しくお願い致します。

瀬戸川彩友さん、「第25回全日本学生スノーボード選手権大会」で準優勝

2月1日（金）に長野県FS やまびこの丘温泉スキー場で行われた「第25回全日本学生スノーボード選手権大会」のスノーボードクロスせとがわあゆの部に出場した瀬戸川彩友さん（運動栄養学科3年－札幌白石高校出）が2年連続準優勝を果たしました。

スノーボードクロスは、スノーボード競技の種目の一つで、同時にスタートする複数の選手が一つのコースに設置されている障害物をクリアし、ゴールを目指します。同時にスタートするという特性上、接触・転倒が多発するため、ヘルメットの着用が義務付けられています。勝敗は、順位で決定されます。2006年トリノオリンピックから正式種目となっています。

瀬戸川さんは「2年連続準優勝という結果は、嬉しいというより悔しい。メンタル面を強化し、来年は必ず優勝したい」と更なる闘志を燃やしていました。

瀬戸川さんのなお一層の活躍が期待されます。



<取材日：3月25日（月）、
取材場所：仙台大学広報室>